

ミュージアムニュース



広島県立歴史博物館
Hiroshima Prefectural Museum of History
草戸千軒ミュージアム

第147号



くさどつきー せんちゃん

Hiroshima Prefectural Museum of History

春の展示

受け継がれる備後表

— 畳の歴史と今を探る —

会期 令和8年 4月17日(金)～6月14日(日)



殖蘭図巻 部分(複製 当館蔵(原本は個人蔵))

備後地方の特産品である畳表は「備後表」と呼ばれ、全国でも最高級品として知られていました。今回、この備後表の歴史とともに、昔の技術を引き継ぎ、未来へつなげていくために活動している人々の姿を紹介する展示会を開催します。

上の絵は、江戸時代の絵巻「殖蘭図巻」(「備後國沼隈郡廿五箇村より織出す畳表蘭農業之図」ともいいます。)の一場面です。この絵巻には、い草の栽培から畳表の製作、そして出荷に至るまでの一連の作業が描かれています。この場面は、地機で備後表を織っているところです。

展示の紹介は次のページへ ▶▶

令和7年(2025)11月11日、ユネスコの評価機関は、無形文化遺産の「伝統建築工匠の技」に「手織中継表製作」を追加登録するよう勧告し、12月11日に登録が決定しました。これは、手織中継表の製作技術の重要性が、世界的に認められたことを示すものです。

ここでは、その手織りの中継表の歴史と、その技術を後世に残すために尽力している人々の姿を紹介します。

■■■ 中継表の発明 —江戸時代の備後表— ■■■

慶長年間(1596~1615)、沼隈郡山南村(現在の福山市沼隈町上山南・中山南・下山南地区)の長谷川新右衛門が考案したと伝えられているのが、「中継表」です。

従来の畳表は一本の長い草で織った「引通表」が用いられていました。しかし、長い草は先端と根元で太さが異なり、また短い草は使えないなど、品質や生産量に限りがありました。

一方、「中継表」は二本の草を両端から通し、中間でつなぐため、短い草も畳表の材料として活用できます。さらに、太さが均一でない草の中間部分のみが使えることから、品質の安定にもつながりました。

江戸時代には、沼隈郡内でこの「中継表」の製織技術が普及したことで、良質な畳表の大量生産が可能となりました。



中継表(当館蔵 来山淳平氏寄贈)
(裏面には両端から通した草の先端が残る。畳表に仕上げる際には、むしり取る。)

■■■ 現在の中継表 —技術を引き継ぎ、未来へつなぐ— ■■■



中継表を織る来山淳平さん(上)と岡本祐子さん(右)
(令和7年 当館撮影)

来山淳平さんの技術は、さらに若い世代へと引き継がれています。

来山さんに師事し、中継表の技術を学んだ岡本祐子さんは、研鑽を重ね、令和7年に広島県伝統的工芸品 手織中継表(製造者:岡本祐子)の指定を受けられました。

この中継表の製織技術を引き継いでいるのが、来山淳平さんです。

来山さんは、技術伝承のため、様々な研修会で講師を務められるなど、中継表製織技術の普及・継承に努められています。令和5年には、国選定保存技術「手織中継表製作」保持者として指定されておられます。また、平成7年11月には、旭日双光章(文化財保護功労)を受章されました。



展示では、古代から中世、近世、そして近代の畳表についても紹介します。備後表の歴史をたどりながら、備後表の現在と「これから」について、考えるきっかけにいただければ幸いです。

ぜひ、御来館ください。

頼山陽史跡資料館 展示の御案内

特集展 植物図鑑 — 文人墨客が描いた世界 —



令和8年
4月4日(土)～7月12日(日)

前期／令和8年4月4日(土)～5月31日(日)

後期／令和8年6月6日(土)～7月12日(日)

※前期・後期で作品を総入れ替えます。

詩文や書画などの風雅の道に携わる人を文人墨客と呼びます。文人墨客は、四君子と呼ばれる蘭・竹・梅・菊を君子の徳を体現した植物として特に大切にしました。また、彼らは様々な植物を愛し、植物の存在に意味を見出し、好んでその姿を描きました。彼らが描いた画は、徹底した観察に基づき細部を精緻に表す植物学的な植物画とは対照的に、植物が持つ生命力や気品、気高さといったものを、感じたままに書き写しています。それを「写意画」といいます。写意、あるいは筆意という語はいささか抽象的かもしれませんが、植物が生き生きと描かれている様子に注目してみてください。

本展では、江戸から明治にかけて生きた文人墨客たちが描いた植物画の数々を取り上げ、筆技によって彼らが表現しようとした世界に迫ります。ぜひご覧ください。

墨竹図 大鵬正鯤筆 竹原・春風館蔵

大鵬正鯤(1691～1774)は中国泉州(福建省)出身の黄檗宗の僧侶。享保7年(1722)に来日し、のちに黄檗宗大本山の万福寺の住持となった人物。墨竹図を得意としました。竹の生命力を墨の濃淡と冴えた線で表現しています。

- 会場／頼山陽史跡資料館(広島市中区袋町5-15)
TEL:082-298-5051
- 開館時間／午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日／月曜日(祝休日は開館し、翌平日休館)
- 入館料／一般220円(170円)、大学生170円(130円)、高校生以下及び65歳以上無料※()は20名以上の団体料金
- 関連行事／展示解説会(通常の入館料が必要です)
【前期】4月18日(土)・4月25日(土)・5月5日(火・祝)
【後期】6月13日(土)・6月27日(土)・7月11日(土)
いずれも午後1時30分から。



▲頼山陽史跡資料館
ホームページ

RAI SAN YOKU



博物館 掲示板

令和8年度の展示会のお知らせ



春の展示

受け継がれる備後表 – 畳の歴史と今を探る –

会期 令和8年 4月17日(金)～6月14日(日)

① 開催記念講演会 ※時間はいずれも午後2時～午後3時30分

開催日	演題	講師
5月9日(土)	畳表と花ござ 心おどるい草織物の世界	岡山県立博物館学芸員 松井 今日子 氏
5月23日(土)	日本からイグサの畳が無くなる日 – 備後地域と熊本産地、そして中国の現状から –	福山大学建築学科・教授/ 備後表継承会・会長 佐藤 圭一 氏

② 展示解説会 ※時間はいずれも午後1時30分～午後2時30分
4月26日(日)・5月31日(日)

夏の企画展

見て楽しい! 日本の城づくり

会期 7月17日(金)～9月6日(日)

日本が誇る文化遺産の代表格である「城」。なかでも近世城郭にみられる天守や御殿といった建築、そして石垣の迫力と美しさは、世界中の人々を魅了しています。

本展では、城をめぐる多彩なテーマの中から「城づくり」を取り上げます。近世の城がどのように築かれたのかについて実物資料を中心に、ビジュアルに分かりやすく紹介します。

秋の企画展

大本山 佛通寺 展

会期 10月9日(金)～11月29日(日)

三原市に所在する佛通寺は、応永4年(1397)に小早川春平が愚中周及禪師(佛徳大通禪師)を招いて創建された、広島県を代表する臨済宗の古刹です。

本展では、当館に寄託された佛通寺の貴重な文化財を中心に、佛通寺の歴史と文化を紹介します。

早春の展示

高校・考古コレクション展

– 高校生がひらく郷土の歴史 –

会期 令和9年 1月15日(金)～3月14日(日)

県内の高等学校で部活動などを通じて収集され、受け継がれてきた考古資料が当館に寄贈されています。

本展では、府中高等学校・福山誠之館高等学校などから寄贈された考古コレクションを展示し、郷土の歴史をひもとくとともに、学校教育と考古学の関わりについても紹介します。

広島県立歴史博物館 ミュージアムニュース 第147号

編集・発行

令和8年3月18日



〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4-1
TEL 084-931-2513 FAX 084-931-2514
e-mailアドレス rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp
ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/>
X(エックス) https://twitter.com/hiroshima_prhk



▲ ホームページ

▲ X(エックス)